

会議録要旨

(1)会議の名称	第4回 芦原温泉駅周辺整備基本計画改定ワーキング部会
(2)開催日時	平成 29 年 2 月 21 日(火) 14:00 ~ 16:30
(3)開催場所	あわら市役所 301 会議室
(4)出席委員氏名	藤澤委員、矢崎委員(代理)、奥村委員、津田委員、田端委員、川口委員、高橋(浩)委員、山田委員、高木委員、細川委員、深水委員、北川委員、長谷川委員、小嶋委員、後藤委員、能美委員、杉本委員(代理)、松永委員 18 名
(5)欠席委員氏名	岡永委員、村上委員、高橋(範)委員 3 名
(6)会議議題	・現駅舎位置、東西自由通路及び駅前広場(西口、東口)について ・各エリア設定、景観方針について
(7)会議資料名称	芦原温泉駅周辺整備基本計画(改定案)
(8)会議の内容の要旨	<p>(1) 現駅舎位置、東西自由通路及び駅前広場(西口、東口)について</p> <p>委・駐輪場について、東口は高架下に設けるようになっているが、西口の駐輪場の場所はどのあたりになるのか。</p> <p>事・西口は適切な場所がないため、今後、使いやすい場所を検討していく。</p> <p>委・東口広場として、何を優先させるのか(生活道路、広場)。階段及び EV 部を新幹線駅舎の向かい側に取り込むことも検討してはどうか。</p> <p>事・取り込む話は協議中である。</p> <p>委・東口広場で、交通島に駐車させる東 3 案はない。東 1 案は交通を中心に円滑になり大型バスも転回できる。東 2 案は人の流れの安全性が考えられているが、大型バスの転回ができないのが問題である。</p> <p>委・永平寺や東尋坊方面への路線バスの増便や観光バスの新規運行が予定されており、西口だけでなく新幹線開業時には東口にもバスのスペースが必要になってくると思われる。</p> <p>委・西口広場の一般車の送迎は、一般車乗降の所で車の右側ドアから降ろすのか。</p> <p>事・一般車は駐車場に一旦入って乗降することを想定している。</p> <p>委・以前、旅館等の送迎バスは 2 台でよいと答えた。実際の乗降は 2 台分だが、2 台が駐車すると後の旅館の車やマイクロバスは路上駐車になるのか。</p> <p>・送迎バスの運転手はお客様を改札口まで迎えに行くため、駐車スペースの確保をお願いしたい。また送迎バスの乗降場をタクシー待機場まで延ばすことは可能か。</p> <p>事・公安協議が必要になり、市としても増加させたいが確約は難しい状況である。要望は承る。</p> <p>委・送迎は、西口、東口のどちらでもよいのではないかと。東口に確保できないか。</p> <p>委・商店街が西口にあり、お客様の待ち時間を考えると送迎スペースは西口にあったほうがよい。</p> <p>事・新幹線が開業すると、バス・タクシー・一般車等の様々な交通が、列車発着</p>

	<p>時間前後に集中する事が考えられ、全ての交通をロータリー内で処理するのは困難である。ある程度の優先順位をつけて検討していくことになる。</p> <p>委・にぎわい空間の歩行者動線について、冬の降雪時期の対策をどのように考えているか。</p> <p>事・にぎわい空間は、広場の利用方法等と総合的に判断する必要があるため、今後検討を行う。交通広場内の歩道はシェルター(屋根)を設置し、自由通路の降り口付近は陸屋根にして雪を落とさない構造にすることを想定している。</p> <p>(2)各エリア設定、景観方針について</p> <p>委・P61、P62の「平成40年度頃を目途」の意図は何か。</p> <p>事・新幹線開業後5年ということで平成40年度としている。</p> <p>委・P64にある東口広場の視点場は何を見せるのか。実際には新幹線の3階ホームから遠くが見えると思われるため、階段のエレベータ部分等を取り込んで考えていくのはどうか。</p> <p>事・周辺の間々、刈安山等が見えることを期待としている。</p> <p>委・近い所の視点場しか載っていないが、遠い所からの視点、遠景として駅舎がどう見えるか確認し、デザイン等を検討していただきたい。</p> <p>事・視点場の提案は遠景を加えたい。</p> <p>委・広場整備にあわせた周辺の電柱等の考え方があれば、お聞かせいただきたい。</p> <p>事・広場内は無電柱化を考えている。一部線路沿いは架線の関係で残る可能性もあるが、これらについては景観的な配慮を行う。</p> <p>委・この資料からは目指すべき景観がはっきり分らない。今回、ゾーンを機能的に整理し、これにアイストップや視点場が位置づけられているが、ここから何が見えるか、何を見せたいのか書いてない。</p> <p>委・俯瞰的に見た駅周辺の景観のボリューム感、緑と機能的なものの割合、バランス、そういうものがどういう風に見えるかというのを、景観計画の景観の形成方針から引っ張り出し、目指すべき駅前空間というものが必要である。</p> <p>委・機能配置が景観計画から一歩進んでいるので、細分化された景観ゾーニングが必要である。</p> <p>委・ロータリー以外の緑のボリューム感はまちづくりに関連するが、そこにも踏み込んだ景観方針図が必要である。</p> <p>委・電線地中化の具体的な場所や、取り組んでいきたいことを景観ゾーニングの中で示していくべき。</p> <p>委・駅前広場の景観方針に「調和」と書いてあるが、何と調和するのか、調和することでどういう景観にするのかが書いてないと、イメージパースの絵になってこない。</p> <p>委・西1案～西3案に「デッドスペースに植栽可能」とあるが、植栽というのはデッドスペースに植えるものではなく、戦略的に景観を作るために植えるので、表現に気を付けていただきたい。</p> <p>委・土地活用検討街区からが芦原温泉駅を眺める一番の地点になるので、ここからどう見えるか、景観計画や方針をしっかりとっておく必要がある。例えばここにホテルが建つ場合、ここはこういう視点場になることも言えるのではないか。</p> <p>委・あわらの「贅」はどこにあるのか。水、緑、それが都市空間の中に潤いとして溢れているのが、あわらの見た目の印象の「贅」だと思う。</p> <p style="text-align: center;">以上</p>
--	---